

令和 4 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100058		
法人名	(株)嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム 嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果確定日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、山や田畑等の緑豊かな自然に囲まれており、四季の風景を楽しめる所にあります。嘉麻の杜理念でもある「我が家」としての機能を果たせる場の提供を充実させ利用者の機能をできるだけ維持できるように調理の下準備・配膳・盛り付けなど積極的にお手伝いして頂いている。春祭り、敬老会、クリスマス会の催事はご家族の皆様にも好評で、外出レクリエーションは季節感を満喫するとともに外食を楽しんで頂いている。これからもご家族や地域の方々のご意見を承りながら利用者の皆様が安心して楽しく過ごして頂けるよう、職員一同、信頼される施設を目指していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「我が家」として、ゆつくり楽しくころ豊かに安心して暮らせる生活空間をとの理念の唱和を継続し、理念の具現化には本人を共に支えあう家族の理解や協力が必須だと、機会ある毎に意見を伺っている。家族から、災害時や感染症予防に対処できるホームでの暮らしは安全で安心と高い評価を受け、「ボランティアで何でもする」と話す家族もある。訪問診療や訪問看護の円滑な医療連携で早期の体調変化を相談や受診に繋げ、9月入居された方は、毎食全量摂取で体重が増え、週3回の入浴や保湿剤の塗布で皮膚疾患が改善し、職員の手引き歩行で下肢筋力低下を防止するなど、落ち着いた暮らしぶりとなっている。運営推進会議前には個人情報保護を読み合わせ、「こんなに働き易い職場初めて」と話す職員もあり全職員が一丸となって、運営者提唱の「安心、安全、誠実」を目指し、懸案中の新たな理念の創出が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム 嘉麻の杜**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に「嘉麻の杜理念」を唱和し、理念の共有を計っている。我が家としての生活の場を提供し、個々のペースに合わせた生活が出来る事を目標としている。	「我が家」としての機能や、ゆっくり楽しくころ豊かに安心できる生活空間を目指し、理念の唱和を継続している。理念の具現化には、本人を共に支えあう家族の理解や協力が必須だと、機会ある毎に意見を伺っている。	運営者提唱の「安心、安全、誠実」を目指し、懸案中のより具体的で簡潔な理念の創出を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在外部の方を呼んでの会議や外出を行っておらず交流は難しい。	自治会加入を継続し、市報を持参された区長から地域の情報を得ている。コロナ禍の中、6年前から交流している保育所から園児作成の貼り絵が届き、クリスマスにはホームからお菓子を届ける予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を行っておらず地域の方への認知症の方の理解や支援の方法等についての発信はまだ不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や避難訓練報告など行っている。現在、コロナウイルス感染症の為、運営推進会議の開催を控えている。	感染緩和の時期も、感染を気遣う家族の意見もあり、運営推進会議録をメンバーに送付している。特段の意見はないが、感染防止への慰労があった。会議録は玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	嘉麻市からの案内があった時は出来る限り参加するようにしている。判断に迷う事があればすぐに相談させて頂いており、其の都度的確な回答を頂いている。	市の担当部署に居室情報を提供したり、管理者は市の推薦を受けて、多様な職種で構成されている認知症地域連携協議会に参加するなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では、「身体拘束ゼロ」を宣言し実行している。年6回開催する運営推進会議に合わせて身体拘束適正化委員会の開催している。職員は年2回の研修会を行っている。現在、コロナウイルス感染症の為令和2年2月より運営推進会議・身体拘束適正化委員会は職員のみで開催している。	基幹道路に面していることや家族の意見で、職員対応が手薄になる時間帯は防犯に配慮し、玄関に施錠している。センサーや防犯カメラを設置し、警察官の立ち寄りをお願いしている。居室のセンサー設置や食事用のエプロンの使用は、家族に了解を得ている。管理者は、外出傾向のある場合は一緒に外出するように、日頃から指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の勉強会を開き、ミーティング等で言葉使い等について話し合いを持ったりして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度等を学ぶ機会が少なく、職員全員が把握、理解できてない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用はないが、随時説明できるように事業等に関するパンフレットを整備している。全く身寄りのない方の金銭管理について、担当部署に相談した経緯がある。	今後はさらに多様な家族構成が予測される昨今の状況から、自立支援事業、任意及び法定後見制度に関する研修で、内容やその違いについて理解の促進を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約では理解しやすいように具体的に説明を行い、疑問点等の質問にはその場で対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・身体拘束適正化委員会後にご家族へ電話連絡し近況報告を行い、ご意見・ご要望を伺っており、其の都度サービス向上に向け努力している。	先月の苑新聞には、敬老会や米寿のお祝いが入居者の笑顔溢れる写真が満載され、家族に意見をお願いしている。訪問調査日は利用料や野菜などの差し入れを持参された家族の来訪が相次ぎ、「誕生会はいつ」との質問もあった。災害時や感染症予防に対処できるホームでの暮らしは安全で安心と高い評価を受け、「ボランティアで何でもする」と話す家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務や月1回のミーティング時に、職員から出た提案や意見を事業主に報告し、反映している。	風通しの良い運営を目指し、毎月のミーティングに運営者も出席している。管理者は、ミーティング後に食事会を設ける等、率直な意見の表出を促している。夜勤帯は見守りと業務内容を話し合い、物価上昇に伴い食料料費の値上げの提案があったが、家族の負担に配慮し、状況を見て判断する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の勤務状況等を把握しており、向上心を持って働けるよう勉強会等に参加する費用は会社にて負担してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別での差別はなく、お互い助け合っ働きやすい職場になっている。職員採用にあたっては、採用基準として「介護に対する情熱」を重視している。	20代～60代までの男女の職員が、常勤や非常勤、日勤のみや夜勤専従等個々の状況に応じて勤務している。開所以来入職している職員もあり、子育て中の職員の欠勤や早退には快く対応しているため、先日入職した職員は「こんなに働きやすい職場初めて」と話している。外部研修参加や資格取得を奨励し、職員からは記録方法の研修参加の希望が出ている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングの中で利用者に対する接遇教育が行われている。	年間研修計画に沿って、内部研修を実施し、運営推進会議や職員ミーティング前に個人情報の取り扱いについて読み合わせている。不適切な言動は管理者だけでなく、職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社年数の浅い職員には特に研修に参加する機会を設けている。(認知症サポーター講座・市主催の研修会等) その他事業所内では、ミーティング時に状況設定を課題として、介護技術の基本を勉強している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、隣接する檜の郷との合同行事は行っていないが情報の交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を計り、出来る限り不安を取り除いて入居して頂きたいと思っている。新しい環境に慣れるまではこまめに声掛け、傾聴し、信頼関係を構築するよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集に心がけ、ご家族の要望を伺ったり、不安解消等に心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意思を尊重し、ご家族とご本人が何を必要としているかを考え対応させて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望や出来る事は声掛けしながら手伝って頂いたりして、職員も一緒に行い家庭生活の延長として捉えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望や出来る事は声掛けしながら手伝って頂いたりして、職員も一緒に行い家庭生活の延長として捉えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会のご家族様だけに限定しておりご近所の方の面会のご遠慮していただきおり、電話での面会を行っている。	コロナ禍の中、面会は場所や時間を制限し、玄関のパーテーションや居間の大きな窓越しをお願いしている。2ヶ月に1度、地域的美容院から訪問美容をうけ、家族や友人宛での暑中見舞いや年賀状の作成で、馴染みの関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方、お話されない方等が孤立しないように職員が利用者同士の共通の話題を声掛けして自ら話をされてお互いが共感を持てるよう支援をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行ってはいないが、コロナ感染拡大が落ち着けば入院先のお見舞いや、代わられた施設への訪問も再開する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人の希望や意向をお聞きし、ミーティングでの話し合いをしたり、その時に応じて緊急対応している。	フェースシートに把握した生活歴や職歴などを整備し、全職員で情報を共有している。中には特定の言葉や意味不明の発語になる入居者もあるが、意志を伝達できる入居者が多く、言動をそのまま受け入れ、さらなる思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供の他に、訪問客にもご本人についてのお話を伺い生活史の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間毎に個人記録を行い、入居者の心身の状態の把握に努めている。また隔週2回の訪問診療、訪問看護で健康管理も行っている。夜間の特変時には訪問看護に連絡し指示も仰いでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問時に家族、ご本人から意見を聞いてはいるが担当者会議やケア会議がまだ不十分な状態である。職員間や訪問診療、訪問看護の連携を充実し、介護計画をすすめている。	入居者や家族の意向、アセスメント結果などを話し合い、介護計画の作成や見直しをしている。9月医療機関から入居した方は、毎食全量摂取で体重が増え、週3回の入浴や保湿剤の塗布で皮膚疾患が改善し、職員の手引き歩行で下肢筋力低下を防止するなど、落ち着いた暮らしぶりとなっている。	「ゆっくり楽しく、心豊かに安心して暮らす」との理念を具現化したケアを提供するために、入居者や家族の生活に対する具体的な意向の把握を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等に関しては個別記録に記入している。重要な事は看護記録や申し送り連絡帳に記載して、職員間で状況を把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の中には仏壇を持っていただける方もいらっしゃるのので彼岸には近所のお寺より彼岸供養をして頂いている。(現在中止)2~3か月に1回訪問カットを行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、ご家族様以外の外部の方の接触を控えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日赤病院と医療連携にて、訪問診療・訪問看護を隔週行っている。救急時には訪問看護の指示を受けたり、必要があれば入院が出来る体制が取れている。他にも3か月毎の眼科往診、必要時の歯科往診をしている。	協力医療機関の定期的な訪問診療や訪問看護で、早期の体調変化を相談や受診に繋げるなど、円滑な医療連携が行われている。専門医療機関受診は管理者が同行し、不穏状態に対処している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気づいたことは訪問看護へ伝えて相談し、適切な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日赤病院と医療連携しており、時には運営推進会議にも参加して頂き、日頃から連絡を取り合っている。利用者の入院や退院後の事についての話し合いが出来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については入居時の説明にてご理解をして頂いており、入院時には主治医・ご家族・職員同席のもと十分な話し合いを行っている。	入居時に、ホームに戻ることを前提とした早めの入院について説明し、居室を3ヶ月間確保している。病状悪化時は、家族とともに管理者も同席し、医師から病状について説明を受け、納得できる入院となっている。これまで看取りはない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、救急救命講習を全員行っておりましたが、まだ指導をうけてないのでコロナ感染が落ち着き次第講習を受けられるよう努力する。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練・通報訓練・夜間想定避難訓練等を行っている。地域との協力体制は十分ではなく、協力体制の構築に努力して行く。	ホーム裏の一角が土砂災害地域のため、対策マニュアルを作成し、訓練を検討している。ホームは指定避難場所より高い地の利のため、水害時は近隣にも避難場所として案内する予定である。顔写真を添付したフェースシートなどを非常持ち出し書面として整備し、食品や感染予防グッズを備蓄一覧表で管理している。	令和3年度から3年の経過措置を設けられた、自然災害発生時や新型コロナウイルス感染症発生時における事業継続計画を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う上での基本的な「言葉遣い、接遇」など全員が守るように話し合い、気をつけるようにしている。	○○さんと氏名で呼称している。声かけや手引き歩行は声の大きさやスピードに配慮し、転倒防止や早めの対応をするために全居室に音色が異なるセンサーを設置しているが、心身の状況を共有しプライバシーに配慮した対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの入居者は自分の口で意志・希望を伝える事ができ、自己決定も大方出来ている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴等は決められた時間があるが、その他の時間は入居者のペースで自由に過ごして頂いており、要望があればそれに添えるよう支援を送っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならない様普段着にも気をつけ、外出時にはおしゃれな服装に着替える事でメリハリをつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立や、庭でとれたトマト、ゴーヤ、ネギ、しそなどを調理に使ったり、食材の下準備、盛り付け、配膳等、職員と一緒にしている。	食前の口腔体操を継続し、円滑な咀嚼や嚥下を支援している。家族から差し入れされた朝採れ野菜や手作りジャムが食卓に並び、入居者希望の茶漬けやカップラーメン、カップ焼きそばを楽しむ、おはぎやシュークリームにロウソクを立てる誕生会もある。訪問調査日は静かな音楽が流れる中、職員の見守りで個々のペースでゆっくりと食事をとる入居者の姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が出るよう献立を立てるよう心掛けている。十分な水分が取れるよう職員は声掛けを心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は習慣がついておられるが、昼食後の清潔保持が確立してない。入れ歯使用の方は夜間は洗浄剤に漬けられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の習慣や生活パターンを把握し1人1人の支援をおこなっている。	日中は排泄パターンに応じて、職員の声かけや手引きでトイレでの排泄を支援している。入眠剤を服用しているためふらつきがあり、夜間のみ前止めオムツを使用したり、センサーで転倒を防止し安全な誘導を支援する入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護婦の指導の下、繊維食品の積極的な取り入れや水分補給の声かけを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や曜日に関してはまだ出来てないが、入浴の方法に於いては個々の要望に添った支援を行っている。	広い脱衣場や浴室はヒートショックを防止するためにエアコンが設置され、週3回を目途に入浴を支援している。入浴を億劫がる入居者はいないが、シャワー浴を希望する入居者が多く、一番風呂の希望に応じたり、最初の入浴時に同性介助の希望を尋ねている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに添えるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態報告と共に服薬目的や副作用について話し合いを行い、処方変更時には申し送りや連絡ノートに記載し、職員に周知している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、脳トレ、季節の壁紙工作など、個々の能力に応じた支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や外食を行っていたがコロナウイルス感染症の為、令和2年2月より外出や外食を控えている。室内でレクレーションを行い利用者が楽しめる様な支援を送っている。	コロナ禍で外出を控え、気候の良い時は苑内を散歩し、四季折々に外気浴をしている。感染が収束した折には、弁当持参でピクニックに出かけたり、職員の食材購入に同行してもらったり、家族との外出を支援したいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクリエーション時には自由に買い物ができるようにしており、ご自分のお好きな物を購入する支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は直接電話して頂いたり、職員が代わりに用件をお伝えしている。ご家族や知人に年賀はがきや暑中見舞いを書いて頂き、職員が代わりに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁飾りを制作したり、加湿器・空気清浄器・エアコン等で部屋の快適さの調整を行っている。夏場は朝顔やゴーヤのカーテンを作り季節感や心地良い生活ができるよう工夫している。	玄関内には左右にベンチ様の長椅子が設置され、家族面会の場となっている。廊下との仕切り戸が外され大きなガラス窓に囲まれた広い居間や天窓のある広い廊下は清掃が行き届き、「明るい」と来訪者にも好評である。居間の一角の厨房から美味しそうな匂いが漂い、空調が管理された居間では食前の口腔体操のかけ声が響き、パーティーションが設置されたテーブルで入居者がゆっくりと食事をとっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームに食卓とソファが置いてあり、それぞれが思いの場所で話したり、電動マッサージ機を使用されたり自由に過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、仏壇など持ち込まれている方もおられる。室内には家族の写真や飾られたり鉢植えの水やりをされたりする。	入口に表札が掛けられた居室は、ベットや収納容量が大きいクローゼットが設置され、仏壇や家族写真、筆筒などが持ち込まれている。職員が清掃や整理整頓を支援し、どの居室も広く清潔で安全な動線を確認している。昼食後は居室でテレビを見たり、ベットに横になるなど夫々に寛ぐ入居者が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを設置しており、各居室にはネームプレートで解かり易くしている。		